

平成24年度 学校自己評価表 (計画段階 ・ 実施段階)

学校運営計画(4月)				評価(3月)		
学校運営方針		次代を担う人間として、徳育・知育・体育の調和を図り、豊かな人格を涵養するとともに自ら学び、個性を伸ばし、心身ともにたくましく、社会の発展に寄与する人間を育成する。			A	
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標			
本校は、文武両道にわたって成果を上げる有数の進学校、伝統校へと発展を続けている。平成21年度に導入した「春日きらめき計画」により、教育活動全般について改善に取り組み一定の成果を上げた。今年度からは、3年間の成果と課題を踏まえた見直しによる計画の改善と実践に努める。また、校務運営組織の整備に伴い、各人の業務量の均衡化と各分掌の連携体制の強化を図る。		生徒相互及び生徒と教師との人間的な触れ合いの中で豊かな人間性を育む。	生徒指導の基本を挨拶、掃除、容儀、時間厳守とし、全職員での指導を徹底する。			
		1時間の授業を大切に、学力の向上・深化を図る。	部活動加入率85%超を目指し、運動・文化の両部活動の活性化を図る。			
			いじめのない学校を目指し、全教育活動において心豊かな生徒の育成に努める。			
		人としての生き方・在り方、及び学ぶ意味について考えさせ、志をより一層高め進路の実現を図る。		悩みを抱える生徒を早期に発見し支援するために、細かな生徒観察を心掛ける。		
				年間出席率を99%超と定め、規律ある授業展開の徹底を図る。		
		中退率0%を目指し、気になる生徒に関する情報の共有化を図りながら指導に当たる。				
家庭学習を充実させるために、学ぶ意義と有効な時間の使い方を全職員で指導する。						
生徒が夢を描き続けられるように、キャリア教育をはじめ、様々な教育活動を通して支援する。						
職員全員の学校経営参画意識を醸成し、チームとしての意識の定着を図る。						
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	
教科指導	「生徒の状況に応じた効果的な学習指導」の実践の企画・運営・支援を行う。	導入期指導「春日生になるために」の実践をとおして、授業力・学習力の向上を図る。	B	A	生徒の家庭学習時間の確保に向けて、各学年や進路部と連携し、生徒の意識を向上させる方策の検討。 1年生の4月に実施している「教科オリエンテーション」における新教育課程に即した具体的な家庭学習計画についての指導法の工夫。 キャリア教育課との連携による「心視の時間」の実施方法の見直し。	
		年間及び学期毎の学習指導計画の活用徹底と学期毎の総括を行い効果的な学習を図る。	A			
	計画的な特別補講、三者面談、調査統計資料の提供等により成績不振者指導の充実を図る。	A				
	「家庭学習時間の減少」克服のため、「学ぶ意義と有効な時間の使い方」の指導を行う。	B				
生徒自らの「在り方生き方」や未来を自主的に探る活動の充実を図り、積極的な生活を身につけさせる。	キャリア教育課との連携を密にし、「心視の時間＝総合的な学習の時間」を充実させ、「生き方・在り方」を考えさせ、「生きる力」や「自主的に学ぶ力」の育成を図る。	B	B			
	人権や現代社会の課題等を盛り込んだホームルーム活動の年間予定を作成し、その充実と発展を図る。	B				
生徒指導	自己指導能力の育成。(規範意識や道徳心の涵養)	「授業心得五行」「春日高校五常」を日々実践する姿勢・態度を身につけさせる。	B	B	「五行」「五常」・身だしなみ等を日常的に心がけさせる指導法の工夫・徹底。 生徒会各専門委員会の活性化。部活動生徒のリーダーシップを生かした学校生活全体の活力に繋げる指導法の工夫・徹底。 交通ルールやマナー(自転車を含む)の向上に向けた指導法の工夫・強化。	
	集団活動におけるチームワークの重視。(リーダーシップやフォロワーシップの育成)	生徒会執行部及び各専門委員会が連動して機能する、主体的に活動できる組織づくりを支援し、生徒会活動の活性化を図る。	A			
	年間を通じて部活動加入率85%以上を実現する。	B				
	自他の安全を確保するための指導の継続と強化。	交通安全・防犯・自己防衛等の教育を計画的・組織的に実施し、自他の安全確保と防衛能力を高める。	B			
進路指導	教員の進路指導力の向上と生徒の進学に係る意識と学力の向上を図る。	指導力向上に向けた研修会・検討会の実施と、入試問題研究会等への積極的な参加を促進する。	B	B	模試結果や各学年の取組に関する学年の枠を超えた共通理解の深化。 新教育課程に即した大幅な「心視の時間」の取扱い方の改善と全職員への共通理解。	
		模試等の分析結果を踏まえた課題確認と強化目標の設定を徹底し、課外や土曜活用の充実を図る。	B			
	進路決定に必要な能力を引き出し、適正な勤労観・職業観を育成する。	外部組織と連携した、講座、講演会、大学訪問等を企画・運営し、進路に係る意識の高揚を図る。	A			
	1年の職業・職種研究、2年の学部・学科研究、系統的な小論文指導等をさらに充実させる。	B				
保健	積極的に健康管理を行う姿勢を身につけさせ、習慣化を図る。	健康診断、日々の健康観察等をとおして生徒の健康状態を常に把握するとともに管理・指導する。心身に問題を抱えた生徒の早期発見・早期対応に努める。	A			
	健康で明るい学習環境作りや環境保護の観点から環境美化に取り組む。	安全点検を定期的に行うとともに美化に関する意識向上を図り、快適な学習環境を作る。	B	A	全教育活動における保健指導の充実と心身の問題に係る情報の共有と早期対応の促進。 学習環境整備の基盤となる清掃活動に対する職員・生徒の意識の高揚とその実践。	
広報活動	地域や関係機関へ本校の教育活動に係る情報を適切・適時に発信し、本校の魅力の周知に努める。	中学校のPTA訪問等を積極的に受け入れ、学校紹介も工夫し、本校の教育活動を伝える。	A			
		学校新聞「春日の風」の内容を充実させ、年4回発行し、関係中学校へ配布する。	A			
		HPを学校の顔と捉え、学校の情報を適切、迅速に発信する。他の分掌とも連携し、内容の充実を図る。	A			
職員研修	職員研修(校内外)の改善と充実を図る。	授業評価アンケートの実施をとおして授業改善に努め、生徒のさらなる学力の伸長を図る。	B	A	校内職員研修の実施内容と時期の見直し。授業評価アンケートの実施方法の見直し。	
		保護者への公開授業を実施し、本校の教育活動への理解を深める。	A			
保護者・同窓会等との連携	PTAや同窓会との相互理解を深め、連携して学校の発展に努める。	PTAや同窓会と連携し、総会、講演会や視察研修の出席率を前年度以上にする。	B	A	PTA行事への参加者増大に繋がったと考えられるメール配信の更なる有効活用。	
		職員と保護者、保護者同士の相互理解の深化のためのクラス懇談の工夫等、更なる連携に努める。	A			
図書活用	情報発信の場としての図書館の積極的な活用を促進させる。	読書会の実施、読み聞かせボランティアへの参加、ブックマレージの取り組みの充実を図る。	A	A	ブックマレージ企画の内容の見直し。生徒による図書館や書店訪問、図書購入企画の充実。	
		教科との連携を図り、関係する書籍や視聴覚教材の利用促進を図る。	A			